

Q 3 固定経費とされる「施設維持管理費」(ランニングコスト) はどれぐらいを想定していますか？

ランニングコストである施設維持管理経費は、道内の他の道の駅や類似公共施設の状況から想定し、全体で約 2,100 万円と試算しています。

ただし、これは「公的部門」と「営業部門」の両方を合わせた金額であり、ベーカリーコーナーやテイクアウトコーナーなどの営業部門による光熱水費や設備費用は、運営者の負担になると考えられますので、今後運営候補団体との協議により負担割合を定める必要があります。

	金額	詳細内容	備考
維持管理 計	20,986 千円		
光熱水費	13,206 千円	電気料、上下水道料金、厨房・暖房用燃料費	金額には「公的部門」「営業部門」の両方の経費を含む
館内清掃費	3,100 千円	年間委託料	
管理委託料	3,044 千円	設備保守点検、機械警備料、除雪・草刈業務	
修繕費	100 千円	設備修繕	
保険関連	136 千円	火災保険料 等	
雑費	1,400 千円	トイレ用消耗品 等	

Q 4 国道 234 号の交通量は減少していませんか？

国道 234 号の交通量については、国土交通省が公表している「平成 22 年度道路交通センサス調査」の結果が現在の公式数値となっています。しかし、公表数値は 5 年以上前のデータであることから、町では平成 27 年度に道の駅建設予定地周辺で独自の交通量調査を行いました。

【調査内容】

- 5月、7月、9月、12月に各1回
- ※1回につき3日間(平日・土日)計測
- 国土交通省の「道路交通センサス調査」と同様に、小型車と大型車の日中12時間調査

【調査結果】H22年度とH27年度の交通量の比較(単位:台)

項目	小型車	大型車	計	備考
H22 道路交通センサス	2,361	2,900	5,261	12H / 平日
H27 交通量調査	2,295	1,984	4,279	12H / 平日
	2,912	1,577	4,488	12H / 土曜
	3,291	282	3,572	12H / 日曜

平成 22 年度と比較して、平日の交通量は 18.7% 減少しているものの、減少要因は大部分が大型車であり、小型車についてはほぼ横ばいであることがわかりました。また、小型車の台数は平日に比べて土曜日は約 2 割、日曜日は約 4 割増える傾向にありました。

なお、平日約 46% の大型車混入率は、土曜日は 35% に、日曜日には 8% にまで大きく減少していることがわかります。

Q 5 立寄想定数は妥当ですか？

平成 27 年 5 月から 6 月にかけて開催した町民説明会では、立寄想定数を 32 万人としていましたが、その算出方法は次のとおりです。

算出方法：①「日中 12 時間の交通量」×②「道の駅立寄率」

①「日中の 12 時間の交通量」= 5,261 台 (H22 道路交通センサス調査より)

②「道の駅立寄率」= 国の資料に基づき、立寄率を大型・小型合わせて平日 8% (8 台 / 100 台)、休日 15% (15 台 / 100 台) と設定。

【参考】道の駅立寄率

車種	曜日	県境型	周辺型	近郊型	都市型
大型車	平日	2 ~ 7%	3 ~ 13%	4 ~ 5%	1%
	休日	3 ~ 9%	3 ~ 11%	5 ~ 7%	3%
小型車	平日	6 ~ 13%	6 ~ 18%	5 ~ 7%	3 ~ 4%
	休日	10 ~ 12%	20 ~ 34%	7%	7 ~ 9%

(出典：建設省北陸地方建設局「道の駅調査」より)

〈立寄台数〉

- ・平日 5,261 台 × 0.08 = 421 台
- ・休日 5,261 台 × 0.15 = 789 台

〈立寄人数〉 平日はビジネス客が多いため

1 台あたりの乗員を 1.7 人、休日はレクリ

エーション、ドライブ客が多いため 1 台あたり 2.0 人と設定。

- ・平日 421 台 × 1.7 人 / 台 = 716 人 716 人 × 297 日 = 212,652 人
- ・休日 789 台 × 2.0 人 / 台 = 1,578 人 1,578 人 × 68 日 = 107,304 人

⇒ 【年間立寄想定 320,000 人】

この算出方法は、道の駅の建設を計画する自治体が使用する一般的な方法ですが、昨年度の町民説明会では「直近の交通量データに基づいていないのでは？」「小型車と大型車の立寄率は異なるのでは？」などの疑問や意見が寄せられましたので、今年度、町では年間立寄数の再検証を行いました。(次ページ)